

劇場を「創る」仕事とは？ 芸劇から、舞台芸術の未来を担う人材を

東京芸術劇場では、将来、公共文化施設や芸術団体、フェスティバルなどでの活躍を目指す若手人材の研修を行っている。レクチャーやゼミ、現場での実務を通して知識と経験を積み、キャリアにつながるネットワークを築く。目的や展望、そして研修生たちの思いは。

劇場や音楽ホールで行われる公演やイベントには、プロデューサー、コーディネーターなどの制作者が関わっている。そういった専門人材の育成は、公共文化施設の重要な役割だ。アーツカウンシル東京が行う人材育成事業「アーツアカデミー」の一環として、東京芸術劇場では2013年から毎年、「プロフェッショナル人材養成研修」を行っている。

プログラムには10カ月ほどの長期コースと3カ月ほどの短期コースがあり、演劇制作、音楽制作、教育普及の3分野に分かれている。修了生は、たとえば東京芸術劇場、東京文化会館、兵庫県立芸術文化センターなど、全国各地の劇場や音楽ホールに就職し、現場で活躍中だ。

現在、演劇制作分野で研修を受ける前田真美さんは、演劇に関わる仕事がしたいという夢を叶えるため、他業種から転向した。

「子どもの頃からミュージカルや演劇を観ていて、学生時代も演劇部でした。舞台芸術に関わる仕事がしたいと思っていましたが、入り口がわからず、どうすれば関われるのだろう、と。建築業界で働いていた時に、研修生の募集を発見しました。キャリアチェンジを掲げたプログラムで、舞台芸術の歴史から教えてもらえるので、他業界からでも安心して参加できます」

研修生それぞれに社会人経験があるため、バックグラウンドはさまざまで、互いに刺激を受けている。教育普及分野に参加する豊島勇士さんは、もともと俳優・演出家として活動していた。「以前、フランスで観た現代サーカスに衝撃を受けました。調べるうち、日本で現代サーカスを広めようとしている人の活動を知ったんです。そういった制作側の役割が重要だと思い、勉強したいと思いました。今は障害のある人とな

りが共に作品を作る『東京のはら表現部』などで、身体表現を用いたコミュニケーションに取り組んでいるところです。演劇の力で壁を越えられる瞬間があり、やりがいを感じます」

演劇制作分野で研修を受けている佐々木クリスティアン隼人さんは、大学で都市計画を学び、劇場という場に興味を抱いたという。以前は劇場を作る会社で働いていた。

「施設を作って終わりではなく、より深く場づくりに関わりたいと思いました。劇場法には『劇場は新しい広場である』と書かれています。公演を観終わった後、観客がわいわい話す。劇場は価値観を共有する格好の場所だと思います。目標は、劇場を開かれた場にすること。今は市民参加型のワークショップなど、いろいろな人が関わる事業に取り組んでいます」

演劇制作分野に参加する小山彩花さんは、こ

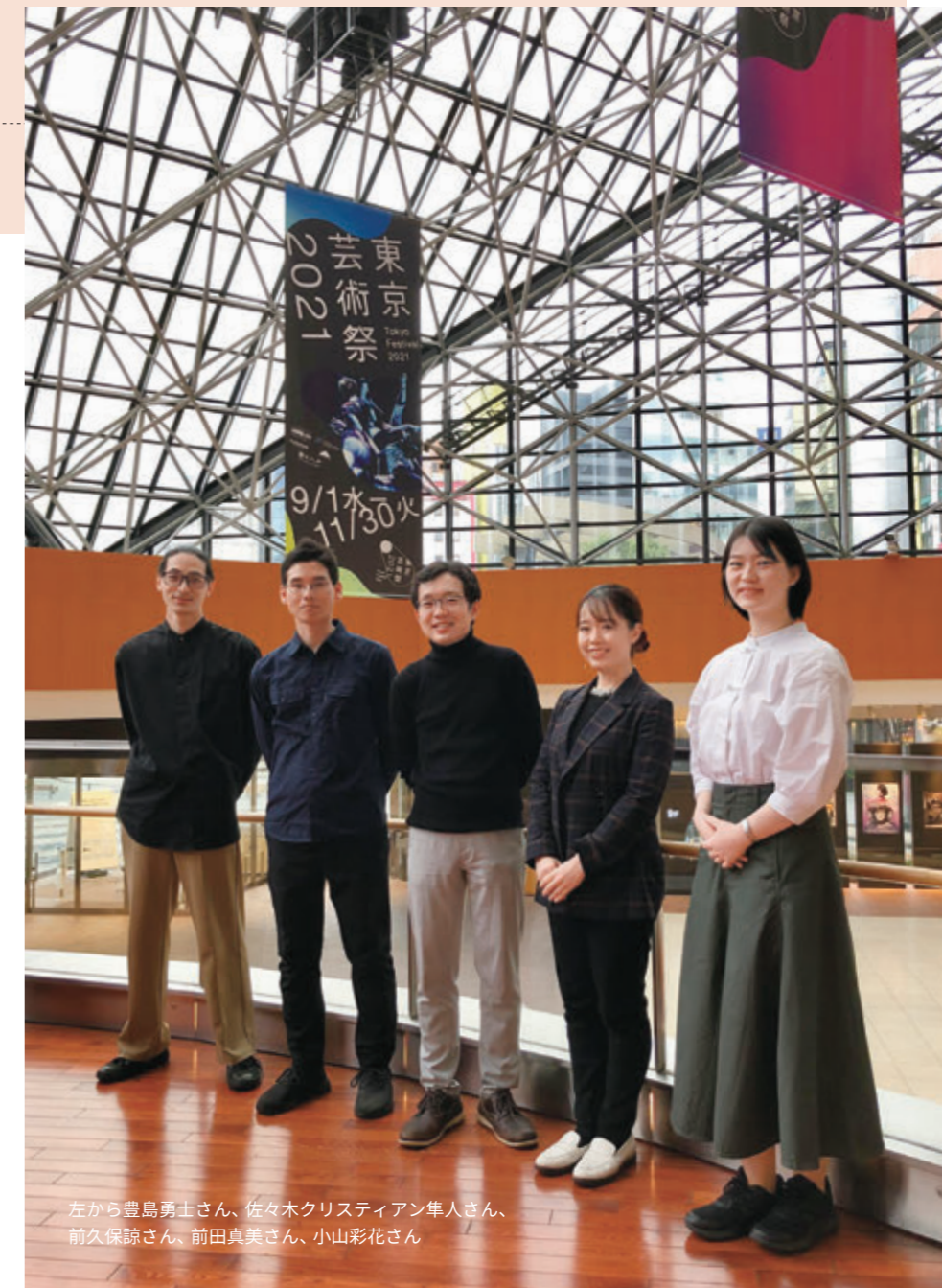
れまで商業演劇を制作していた。公共劇場の業務に携わり、発見があったそうだ。

「公共劇場は必ずしも営利目的ではないので、よい公演とは何か、地域にとってよい取り組みとは何か、関わる人たちみんなが考えている。自分も『どう思う?』と問われることが多く、そのたびに考えさせられます。若手劇団の支援や貸館業務などの実務と並行して座学があり、思考を整理できるのがとてもいいですね」

音楽制作分野の前久保諒さんは、短期コースでの参加。公演の企画から開催までの流れや広報業務を実践的に学んでいる。

『ボンクリ・フェス』では、一つのイベントができていく過程を体験しました。アーティストック・ディレクターの藤倉大さんがコロナの影響で急遽リモート参加になり、その場にいるような雰囲気をつくるため、Zoomをつないだデバイスを持って会場を移動したんです。するとお客さんとの思わぬやり取りがあったり、予定調和ではない展開が生まれたりした。臨機応変に対応する面白さを感じました」

アーツアカデミーで多様な経験を積んだ研修生たちが、公共劇場の未来を担っていく。



左から豊島勇士さん、佐々木クリスティアン隼人さん、前久保諒さん、前田真美さん、小山彩花さん

アーツアカデミー 東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修

◆ 研修目標

分野	演劇制作・音楽制作・教育普及
現場経験	机上の論で終わることなく、理想を実現するための経験を蓄積する。
座学	キャリアの基盤となる豊富な知識と、クリエイティブな思考を身につける。
ネットワーク形成	他の劇場や芸術団体を訪問し、将来のキャリアにつながるネットワークを築く。

※令和4年度のプロフェッショナル人材養成研修の応募資格など募集の詳細については、東京芸術劇場ウェブサイト等でお知らせします。 www.geigeki.jp

主催：(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京芸術劇場



左：他館研修で全国各地の公共施設を訪問する。城崎国際アートセンターを訪れた時の様子
右：芸劇の館内で講評会を開催。研修生一人一人がプレゼンテーションを行う